



池面に霧が発生。幻想的な風景に出会いました。しだいに気温が上がり3月末と言って良いほどの暖かい日になりました。季節感が狂ってしまいそうですが、気温の変化に敏感な生きものは反応しています。この日の帰り、東の空に積乱雲が見られました。



ウメ

もう少しで満開です。今年の開花は例年より2週間くらい早いです。雨粒をはじいて甘い香りを漂わせていました。枝周りを調べたら、ジョロウグモの卵のうが6つも



見つかりました。さすがに親蜘蛛は姿を消していました。



カンムリカイツブリ夏羽へ

上の2羽は頭頂部の黒い冠羽が長くなり、目の後ろ側(耳羽)の羽が伸び出し、色も赤褐色になっています。



ヒバリ囀る

数十羽上で囀っているのに気づきました。羽を素早く動かしてホバ

リングしている姿です。その後、南西の農耕地のある方に移動していきました。



ミヤマガマズミ冬芽



左は例年2月の冬芽のようすです。今年は上のよう大きくふくらんでもう少しで葉を広げそうです



シイの新葉

普通は3月末から4月頃に冬芽が伸びて葉を広げます。赤い葉を広げるのは時間の問題です。この近くでは2つだけで痕はおとなしく冬芽のままでした。



アシナガグモ

池に張り出す桜の枝先にぶら下がっていました。通常は水辺で4月中頃からよく見つかるようになり、水平に円い網を張っています。ユスリカな

どがいるとはいえまだ早すぎます。



ホオジロの囀り

スズメと同じくらいの大さですが、尾羽が長いので大きく見えます。目の下(白←)や目の上、喉に白いもようがあり頬白の由来になりました。ヒバリと同じように、春を告げる囀りで、もう少し練習を重ねると「一筆啓上仕り候」と聞こえるようになります。



ヒロバフユエダシヤク

2月から3月に現れるフユシヤクガの一種です。この仲間の雌は羽がなく飛べません。食樹はサクラなどです。愛知池では初めての記録です。



大量発生したツチグリ(茸)

胞子が入った丸い袋の下に蛸の脚と見まがうばかりの開いた外皮が見られます。外皮は乾燥すると元のように丸まります。



イスノキハタマフシの中

イスノキの葉に黒い玉のようなものがよく見つかります。これはアブラムシの一種が作った虫こぶです。色が違うのがあったので何だろうと思いました。中にいたのは茶色いクサカゲロウの幼虫と、黄色いトビムシの一種でした。使われなくなった虫こぶの殻を巧みに再利用して冬を乗り切ろうとする生きものたちがいました。



植物 ウメ、コブクザクラ、スイセン、ニホンタンポポのロゼット、ナンテン実、クチナシ実、ヘクソカズラ実、テイカカズラ蔓、ニセアカシア棘、ノイバラ実、ヤマハゼ実、冬芽(ソメイヨシノ、イロハカエデ、ヤマザクラ、ヤマモモ、コナラ、タブ、ヌルデ、アラカシ、シイ等)、 **昆虫** ヒロバフユエダシヤク、ウスバフユシヤク死体、ナミテンアツバ、ツヤアオカメムシ、スズキクサカゲロウ？幼虫、キソガワフユユスリカ雄が蜘蛛の網にかかる、アブの一種死体、 **クモ** アシナガグモ、ジョロウグモ卵のう、 **鳥・その他** ヒバリ、ハシボソガラス、キジバト、ヒヨドリ、ツグミ、メジロ、コゲラ、シジュウカラ、ホオジロ、コジュケイ声、ミサゴ、カワウ、カルガモ群、カンムリカイツブリ大群2、ホシハジロ、オオバン、ミコアイサ、(虫こぶ)イスノキハタマフシ、イスノキエダチャイロオオタマフシ、イスノキエダナガタマフシ、(茸)タマキクラゲ、ツチグリ、スエヒロタケ、 **菌糸** **次回は3月12日(木)、午前9時30分~12時、水資源機構P前集合、参加費100円**